校友時報

昭和36年6月27日
編集人兼発行人 秋田県立能代商業高等学校
印刷所 大阪堂印刷所

## 秋田国体
# 準備、順調に進む

### 懸念される県民の協力

昭和三十年に内定、四三五年に正式決定をみた秋田国体は、三十四年には最大の懸案である会場をすべて決定、これによりそれまでの諸運動の段階を脱却し、第二段階〃肉づけ〃に入った。それ以来、各市町村は、「交通、宿泊の問題」から「花いっぱい運動」に至るまで広範な準備を繰り広げ順調な結果をおさめている反面、国体というものが、各市町村民に精神的に行き渡っていないという重大な問題に直面しているようだ。

財政再建国体であるとも勿論だが、県民の協力が問題視されるにいたった。最大の理由は北海道東北地区の整備が遅れたことも注目される（今まではほとんど市町村負担）。

ところで、国体まあと三年半足らずで、国体の準備を進めているので、諸事業にかかる費用を、すべて国体の準備費と見るのは正しくないのだが、市営球場整備に二百六十万円、体操競技場購入に二百五十万円、市民体育館新築に四千八百五十万円、北海道東北地区の整備〃ほぼ不可能と思られている。更に経費関係では、市当局が寄付金見込額の二百万円の大半を特殊寄付に期待していることも注目される（今までは、ほとんど市民の寄付金対象だった）。

だから、金額に関して、楽観は当然であろう。勿論、民間の関心も四十年を予定しているうち、現在まで二十五年が決定し、比較的楽のようだ。

しかし、このような中になんら問題がないわけではない。県、とくに能代市は、国体を一つの機会として日常生活の改善を試みようとしているのであって、それは非常に結構であり、また「花いっぱい運動」をはじめとする諸運動もまだたいした反応はないものの、当局が楽観視しているのだからそのうんぬんはさけよう。しかしこれらの事柄を通して、秋田国体のモットー、及び国体を迎える精神、つまりサービス精神がほとんど徹底していないとみられることである。勿論、能代市内においてその中心部はそれに務めているが……。

秋田国体のモットーが〃健康なから〃明朗な生活〃人には親切〃であることがはっきり知られているだろうか。またサービス精神が、先述の地区以外へくる人々に伝えようとしている。市内の中心部から離れた一町内の人々は、国体はドコ吹く風といった状態であったから、その精神がどうこうという事は然いたっていないであろう。これが今後頻発される最大の問題であって、これを解決できなければ秋田国体は実のないものに終ってしまう可能性は多分にある。

### 図書部、レコ・コンに新企画

去る六月二日、図書館において今年度第一回目のレコードコンサートが行なわれ、好評だった。図書部（義務係）では、さらに内容を充実したものにするため、レコードを持っている人々が、自分の好きな、あるいは人に聞かせたいレコードを持ち寄ってきて、自由に聞き批評しあうというようなことを考えている。次回は七月上旬の予定。

### 秋田国体

顧問 高橋彰三郎

昭和三十年秋田県は、国体を迎えようという現在、最も気にかかるのは、はたして国体を方全体の制で迎えれるか否かであろう。それについて県準備委員会や能代市国体事務局とかの関係各方面は比較的楽観視している。各会場並びにさまざまな用具の準備はほぼ整って、来完成の会場も国体開催までは落成式を挙行できようし、「花いっぱい運動」ことば通常結構であり、また「花いっぱい運動」をはじめとする諸運動もまだたいした反応はないものの、当局が楽観視しているのだからそのうんぬんはさけよう。しかしこれらの事柄を通して、秋田国体のモットー、及び国体を迎える精神、つまりサービス精神がほとんど徹底していないとみられることである。勿論、能代市内においてその中心部はそれに務めているが……。

秋田国体のモットーが〃健康なから〃明朗な生活〃人には親切〃であることがはっきり知られているだろうか。またサービス精神が、先述の地区以外へくる人々に伝えようとしている。市内の中心部から離れた一町内の人々は、国体はドコ吹く風といった状態であったから、その精神がどうこうという事は然いたっていないであろう。これが今後頻発される最大の問題であって、これを解決できなければ秋田国体は実のないものに終ってしまう可能性は多分にある。

秋田国体は十月だから、選手の仕上げは殆んど済んでいるはずだ。今は施設の完成に拍車をかけているだけとみていいだろう。国体というような義務分を背負って強化された選手が、果してどの程度の活躍をするか、一抹の不安がないではない。もし期待にそぐわれれば定石通り選手の根性云々となるのではあるまいか。しかしそれより以上に危惧されるのは、各自が自覚の薄い悪しにかかわらず、次の発展の重要な礎石となす気構えを持つだろうかという感がある。大事業を終えて自問を矢い、単なる空感、徒労感だけを味わうのでは、あまりに根性が足りない。行事の感覚スタッフは頭を丸めても、髪がのびるにいくらもかかるまいかそれはそれでいい。ただ、それ以外の人達が消耗品なみに扱われていい筈はないし、自身それに甘んじるべきでもない。

改めて国体における自分の立場を省みるべきである。関係が深ければ深い程、幻想にとりつかれることなく、強い意志でこれを乗り越えるのでなければ、虚脱状態に落ちるだけで、発展の可能性は生れないと思う。国体の真の意義をわきまえずに分からないと値のはった観光旅行で終ってしまう。

### 時評

秋田国体が近づいた。いろいろの面で、来るべき東京オリンピックの前哨戦だという。選手の強化や各種の施設整備、整備等思い当る節々は数多い。

ローマオリンピックでは不振だったレスリング部門の関係者が頭を丸めて謹慎し、ニュースになったことがある。そこでいち早く強化の手をうち、自信を持って世界選手権を迎えたが、思うような成績はあがらず、結局選手個人の根性の問題だと片付けられて生った。再心新を丸めた意は聞かない。

秋田国体は十月だから、選手の仕上げは殆んど済んでいるはずだ。今は施設の完成に拍車をかけているだけとみていいだろう。国体というような義務分を背負って強化された選手が、果してどの程度の活躍をするか、一抹の不安がないではない。もし期待にそぐわれれば定石通り選手の根性云々となるのではあるまいか。しかしそれより以上に危惧されるのは、各自が自覚の薄い悪しにかかわらず、次の発展の重要な礎石となす気構えを持つだろうかという感がある。大事業を終えて自問を矢い、単なる空感、徒労感だけを味わうのでは、あまりに根性が足りない。行事の感覚スタッフは頭を丸めても、髪がのびるにいくらもかかるまいかそれはそれでいい。ただ、それ以外の人達が消耗品なみに扱われていい筈はないし、自身それに甘んじるべきでもない。

改めて国体における自分の立場を省みるべきである。関係が深ければ深い程、幻想にとりつかれることなく、強い意志でこれを乗り越えるのでなければ、虚脱状態に落ちるだけで、発展の可能性は生れないと思う。国体の真の意義をわきまえずに分からないと値のはった観光旅行で終ってしまう。

### 世代と青年

**説論**

「おいッ○○！将来何になるつもりか！」

「ハッ、陸軍大将であります！……光陰矢の如し……今昭和三十六年六月。「○○君の将来の理想は何かネ？」

「理想ですか。僕は……そうですネエ、どっかの会社に入ってささやかな一家を持つことです。」

陸軍大将から商給社員生、わずか三数年。かくも変ってしまった……「時代が違う時代が！」もとより言う者があればその断りはいっていると言いたい。たかに時代の相異である。「ハッ、陸軍……」の頃は進出大なる日本であった。日本はいわゆる後進国で、若々しきがあったのだ。理想を抱き、それが大願成就なるか否かは、当人の努力しだいであった。今はどうだ……そして理想を商給社会にまで落した原因は何であろうか。

「人が多すぎる。このラッシュ時にたとえ陸軍大将だ！受験勉強二キ印になったか？オレはまず、どっか小さくてもよい、喰うだけのすき間に挟まることだ」スキマに挟まる……なんとみじめな事だ。だが事実としてされしか出来ない。そのスキマさえも、チャンスの神にそっぽを向かれてしまった者にはあり付けないのだ。大学を出て、ブラブラしている「努力した者」が幾人いる事か？青年期をまるつぶしにして学問一筋に精進して来た者の「なりの酒」が「大学出の日雇」であっては「ハッ、陸軍……」などと、キッと目を上に向ける面に、ちゃら臭せエ！とことばを言って大人は青年を批評するが変ってしまったこの世代者に高性なる理想は生れる。彼らの理想は自然であったのだ。「今の若い者は……」そうなたくなるであろう。「青年期をまるつぶし……」と書いたが、その事は考えてみるに値する。

昔（第二次大戦以前）青年はすばらしかった。比べて今の青年が劣るというのではない。彼らはすばらしい周囲を持っていたのである。彼らは一押せば動く「相」の中で、のびのびと青年の気を吐いた。師を頼み、友と論し合い、青春の熱やり場はどこにでもあった。可能性のある所に理想は生れる。彼らの理想は自然であったのだ。「今の若い者は……」そうなたくなるであろう。「青年期をまるつぶし……」と書いたが、その事は考えてみるに値する。

昔（第二次大戦以前）青年は時代なのか……。青年期、その持つ感受性が十分に発揮される時代でない事は判然としている。現代日本を一言で尽すなら「失われた青年期」こう叫って過言ではない。一生涯を最も神経の冴えている時に、我々は、あわただしく過ぎてゆかねばならないのか。青年が左右に目を注ぎ、見識を豊かにして成長してゆくには、現実が冷たすぎる。我々は今一度、その置かれている周囲と自分とを考えてみる必要がある。

### 総体
## 体操部七連覇を果す

第七回高総体体育大会が六月十日から十三日までの四日間秋田市で開催され、本校は体操競技優勝、陸上種目優勝、バレー部準優勝の成績をおさめた。

体操は十二、十三の両日、秋田スポーツ・センターを会場として行われ、本校から体操部に小野、石川、設楽、袴田が出場、合計三二六・四五で堂々一位、全県大会七連覇を成し遂げ、インターハイ出場権を獲得した。また個人では小野が二一〇・九五で一位、石川が二〇八・〇〇で二位、設楽が四位、袴田が九位になり、さらに種目別ではつり輪、跳馬、鉄棒に小野、あん馬、平行棒に石川がそれぞれ優勝した。

陸上は十一、十二日の二日間八橋競技場で行われ、金田が二百M、四百Mの二種目に優勝し、さらに百Mでも一位入賞の大殊勲を打ち立てた。なお金田は、同月十七日の東北大会四百Mに出場したが惜しくも三位に終った。

十一日から十三日まで日新中、秋工で行なわれたバレーでは、本校バレー部は優勝を期待されながら伏見大館鳳鳴に2—0のストレート敗を喫し、二位にすんじインターハイ出場権を失った。

### スポーツライト

▼さる十二日、金鳳総合で秋田へ行った連中は、生涯に一度の大惨事にでくわした……。但し、も少し汽車にスピードがあった時のハナシ。連中曰く。「ナンダと思ったり、急に汽車がギーッて止ったべ。ンダケ、あっちからも汽車が来てラジヤ。あド一メートルぐれでトツカンであったレ……」ナンマイダ……ポクポクポク。

▼本校硬式野球部へ中央から大学現役選手が、コーチに来てハッパ

### 三角点

**スポットライト**

**総体概評**

**総体別問題**

**生徒会予算**

**総体結果**

**映画紹介**

**能高生**

### 紙面紹介

| | |
|---|---|
| 一面 | 国体 論説 時評 三角点 スポットライト 総体概評 総体別問題 生徒会予算 総体結果 映画紹介 能高生 |
| 二面 | |
| 三面 | |
| 四面 | |

### 三角点

縄張で新聞の原稿を書いていたら、原稿用紙の上に汗がポタリと落ちた。万年筆を握っている手にも汗がジットリとにじんでいる。「フーッ、アツイアツイ」と言をぬいて窓にかけた。ここ太州の北の果て、能代もすっかり夏である。上着を着ている生徒はもう数えるほどしかいない。ほとんどの生徒が真白いワイシャツ姿である。純白のワイシャツ姿には、若々しさがある。健康美がある▼このように暑いと、とかく精神がたるみがちである。また、夏は悪への誘惑も多くなる。ここで一つ精神を締めなおそう。

「能高生はだらしがない」などと言われては大変だから！▼そういえば、今秋国体で国体が開催される。〃明朗〃〃親切〃〃この三つが秋田国体の三大支柱。このため親切運動なども盛んに行なわれている。私はこの〃親切〃について美しい情景を目にした。

▼総体を見ての帰りの車中での事おばあさんたちが四人乗り込んで来た。座席は総体帰りの学生でいっぱいだった。席をゆずろうとする人はだれもいなかった。このとき、我が能高生がおばあさんたちに席をゆずった▼しかし、ここで私は、能高生全員が立派な学生だとは言わない。なぜならこの情景を黙って見ていて、席をゆずろうとはしなかったのも我が校の生徒である。この車両には多数の一年生が乗っていた▼二・三年の諸君、一年生に能高生はこんな立派な人間ばかりだ、という手本を見せてあげたらどうだ。また一年生諸君あなたがたもうう新入生ではない。能高の空気にもすっかり慣れたろう。この辺で能高生としての立派な態度をとって欲しい。

をかけて行った。やって来たのは立教大学投手の田辺修選手（本校出身）と三捕手の岡本凱彦選手（浪商出身）の二人。ゴクロウサンデシタ！

**おわび** 一面の国体マークの傾きが逆であることをおわびします

夏を写す
D・P・E
あわぢ
第一小前 T 411

当店の参考書を使うと
期末考査100点まちがいなし
一長堂
鳥町 T 55

唐津写真館
鳥町下 T 339

冷たいもりを
モリモリ食べて
「まんぷく」になりましょう
まんぷく食堂 駅前 T 704

opt pen
カモヤ
鳥町 T 464

三羊堂
8ミリシネ
各種カメラ
D. P. E.
鳥町銀座 T 1394